



歴史のドアを開けよう

Natural History
第57回

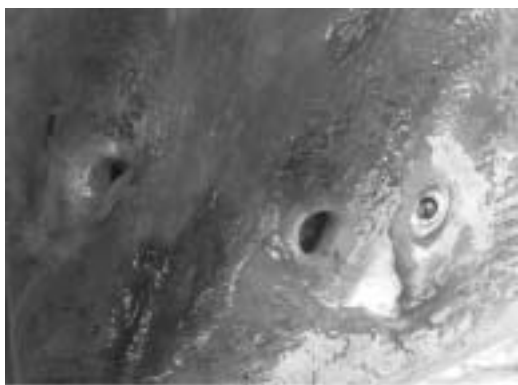
いしかり博物誌

■文化財課 ☎72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩海浜植物保護センター ☎60-6107
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp



▲11年ぶりに石狩川で捕獲されたチョウザメ



▲チョウザメの顔

5

月27日、石狩川河口で11年ぶりにチョウザメが網に掛かりました。オスの成魚で体長2.3m、体重100kg以上と推定され、記録に残るものでは最大級に近いものです。

石狩市には、江戸時代から伝わる伝説があり、それによると、この魚は石狩川のぬしだといわれます。そのため石狩弁天社や金龍寺には、チョウザメの神様(鮫様)が祭られています。この神様はサケ漁の神様です。

石狩川のチョウザメが歴史に登場するのは、享保2(1717)年が最初です。

チョウザメは、なぜ石狩に来たか

このときは、「菊と鮫」の名で松前藩が幕府に献上しています。漢字では「蝶鮫」と書きますが、これはうろこ板がチョウの羽を広げたように見えるからです。この魚は、普段は海にいて繁殖期(5、6月)になると川をそ上します。記録では、現旭川市の神居古潭まで上っています。しかし、サケのように産卵などの後、死ぬことはありません。過去、石狩川では「ダウリアチョウザメ」と「ミカドチョウザメ」の2種がそ上した記録があります。今回捕れたのは、「ダウリアチョウザメ」の方だと考えられます。「ダウリア」は、昭和44年、平成5年の2回捕獲されています。この種類は、最大で体長5m、体重1t、寿命も50年を超えるといわれ、中国では「皇帝の魚」などとも呼ばれています。

チョウザメは、映画『ジュラシックパーク』でおなじみの中生代ジュラ紀後半期、約1億5千万年前に現れた古代魚だそうです。現在、世界で27種類ほどいますが、ほとんどが絶滅の危機にひんしています。明治末ごろには、花畔などでロシア人がキャビアをとるためチョウザメ漁をし、同じころの札幌の市場では、夏の魚として売られていたそうです。しかし、それ以降はほとんど幻の魚となっ



▲昭和44年のチョウザメ
(昭和44年10月3日北海道新聞夕刊より)

てしましました。『北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001』では、チョウザメはすでに絶滅した魚に分類されています。

(石橋孝夫)



まちの主な出来事を写真で振り返るコーナーです。



6 27 訓練の成果を披露

市内消防団員の士気高揚と、日ごろの訓練の成果を発表する「石狩消防訓練大会」が今年も市役所横広場で開催されました。訓練種目の一つ、「放水標的落とし競技」では、団員が防火衣をまとい、小型ポンプにより放水し、的を射抜くという一連の作業をわずか35秒前後で行っていました。



7 3 あそびーち石狩の海開き

夏を待ちきれない大勢の人々が押しかけたこの日、お天気にも恵まれ、安全祈願祭や水難救助のデモンストレーション、そして貝拾いがにぎやかに行われました。水着姿の子どもたちがあちらこちらで歓声をあげていましたが、水温は19℃と、まだ少し冷たかったようです。



7 8 浜辺でお宝を探せ！

いしかり砂丘の風資料館では、この夏、さまざまなイベントを企画していますが、写真の「石狩ビーチコーマーズー漂着物の博物誌」もその一つ。貝殻や異国のガラス瓶など、石狩浜に流れ着いた物について、資料館学芸員のアドバイスを受けながら、参加者一人ひとりが考えるもので、普段は見過ごしてしまいそうな小さなことにも、驚きと発見がありました。



7 19 「海の日」ならではの祭り

石狩湾新港花畔ふ頭特設会場で開催された「海の祭典inいしかり」では、今年もフリーマーケットや屋台が並び、YOSAKOIソーランや石狩太鼓などが披露されました。また、100人まで限定のタグボート「ひうら丸」による港内クルージングも人気を集め、「海の日」らしい1日となったようです。